

# 下関市立大学広報



海峡の英知。未来へ。そして世界へ。

公立大学法人

## 下関市立大学

Shimonoseki City University

2018年3月1日 第84号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>



## 下関市立大学鯨資料室開設10周年記念シンポジウム

「～下関の鯨とふく、新たな挑戦～」を開催しました!

教授 濱田 英嗣

(附属地域共創センター センター長)

平成19年度に下関市立大学に鯨資料室が設置され10年が経過し、「くじらのまち下関」に関して地域貢献を果たしてきたことから、平成29年10月28日(土)に資料室開設10周年記念シンポジウムを海峡メッセ下関で開催しました。



地域共創センターのもう一つの柱であるふくを加え、下関の地域・地場産業である「鯨とふく」の新たな挑戦と題して、鯨やふくに関する最新のビジネス動向を市民の皆様を紹介し、下関の経済発展の可能性を論議するという狙いを込めました。シンポジウムの具体的な進め方は二部構成とし、まず第一部として鯨関連、第二部にふく関連の新たな挑戦事例を取り上げ、最後に総括という組立としました。

第一部の鯨では、平成26年度に本学に寄贈された戦前の南氷洋捕鯨資料(中部家資料)の中の鯨油製造統計数値から我が国の南氷洋捕鯨の存立条件を岸本充弘・下関市立大学附属地域



共創センター委嘱研究員が検証するとともに、現在下関市で製造されている鯨油を使用した石鯨や魚の餌の研究開発に取り組んでいる「吉田総合テクノ」の吉田幸治・(株)吉田総合テクノ課長と、岩田在博・山口県産業技術センター研究員をパネリストとして加え、鯨油の持つ可能性と地域産業としての将来性が示されました。

※下関では、フグのことを「幸福」につながることから「ふく」と呼んでいます。

第二部のふくでは、バイオマスによるトラフグ陸上養殖の実用化を下関市内で目指している(株)EECLの城下隆代表による話題提供、パネリストとして高橋義文・九州大学農学研究院准教授、佐々木満・山口/みなど合同新聞社参与を加え、ふく流通基地である下関が陸上トラフグ養殖を組み込む意義や波及効果が示されました。

シンポジウムの総合討論においては、フロアから鯨資源の可能性として骨や血液の新たな商品化も視野に入れていいのではないかといった発言や天然トラフグ資源が枯渇する中で下関市内に生産機能を持つことで下関フグブランド基盤強化に繋がるといった発言もあり、有意義な記念シンポジウムとなりました。



下関市立大学鯨資料室開設10周年記念シンポジウム  
～下関の鯨とふく、新たな挑戦～  
主催：下関市立大学附属地域共創センター 後援：山口県

下関市立大学鯨資料室開設10周年記念シンポジウム

### 下関の鯨と ふく 新たな挑戦

トラフグの陸上養殖

鯨油の利用

日時：2018年10月28日(土) 14:00-15:50  
会場：海峡メッセ下関4階公開講座  
主催：下関市立大学附属地域共創センター  
後援：山口県

## 就職支援

## 学内合同業界研究会に参加して

国際商学科3年 岡田 知也

(福岡県立中間高等学校出身)

私は、11月15日から行われた3日間の学内合同業界研究会に参加し、約15社の説明を聞いて様々な業界について知ることができました。自分の興味のある業界、今まで知らなかった業界を一気に知る良いチャンスであり、これからの就職活動のモチベーションを向上させる有意義な3日間でした。

今回の合同業界研究会で「企業に自分自身の主体性や積極性をアピールすること」をミッションに臨みました。来られている企業の中には、卒業生の採用実績もあるため、質問をしっかり行い「熱意」を伝えました。その結果、企業のインターンシップに参加すると、顔を覚えてくれたり、何かと気にかけてくれたりと、積極的に動いてよかったと思えることが多々ありました。

質問や熱意を伝えると、人事の方は真剣に向き合ってくれます。この機会を生かすも殺すも自分次第だと痛感しました。大切な情報はインターネットにも掲載されていますが、掲載されていない情報は自分の足で稼ぐことが重要であり、稼いだ情報は他者にはない武器になると思います。

今回の学内合同業界研究会で、業界を知ることができるということにとどまらず、人事の方々に質問をすることによって、仕事をする上での様々な疑問を解消できるよい機会となりました。これからも自分と向き合って就職活動を有意義なものにし、「感謝の気持ち」を忘れずに、主体性や積極性のある行動を起こしていきたいです。



## 力の源ホールディングスのPBLに参加して

国際商学科3年 河原 麗菜

(京都教育大学附属高等学校出身)

私はシンガポールで「一風堂」のPBLに参加しました。国内での事前課題からシンガポールでの調査活動、プレゼンテーション、さらに帰国後に本社でのプレゼンテーションや学校内での報告会などたくさんの活動を含めると半年以上の活動期間がありました。全てにおいて各自で計画、準備、発表をこなさなければならず、スケジュール管理の大切さ、自主性の重要性を学ぶことができました。実際のシンガポールでの期間は2週間でしたが、とても濃厚な時間でした。社員の方は私達に対して、常に全力でぶつかってきてくださり、プレゼンテーション発表日が迫るにつれて、話し合いが夕方まで続くこともあり、大きな期待に応えることは簡単なことではありませんでした。正直、あまりの熱気に逃げ出したくなることもありましたが、私は「本気になること」



の大切さを、何より学ぶことができました。常に上を目指す、そんな食欲さを教えていただいた気がします。このような機会を与えてくださったすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

## 4大学合同ワークショップに参加して

経済学科3年 百合野 明

(山口県立下関中等教育学校出身)

今回のワークショップではB to B企業ならではの魅力について学ぶことが出来ました。今までB to B企業と聞いても何をしているのか、また社会でどんな役割を担っているのか全然知りませんでした。私はまずトラスコ中山株式会社の話を聞きました。そこではモノづくりを支える商社として、仕事を通して社会を支えていること、また社員の方々はそれをやりがいに働いていることを学び驚きました。次に三和酒類株式会社で話を聞きました。この会社は大分に根差した企業であることから、地元の他の企業と共に、大分という地方を盛り上げる取り組みや工夫を行っており感心しました。また最後に他大学の人と一緒にB to B企業ならではの良さについてディスカッションを行いました。そこでは、その会社の商品の情報だけでなく、取引先企業に関する最先端の情報を得られるということ、また、商社は扱う商品が多いためお客様に寄り添った営業ができるといった事に気づくことができました。今後はB to Bの会社も企業選びの際に注目していこうと思いました。



## 就職直前セミナー・キャリアスタディに参加して

国際商学科3年 今井 皓基

(兵庫県立川西緑台高等学校出身)

就活が本格化する前に、実際に社会で活躍されている先輩方の意見に触れたいと考え、就職直前セミナー・市大キャリアスタディに参加しました。実際に参加してみると、様々な角度からご指摘やご意見を頂くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。面接練習では、フィードバックをしっかりと頂き、自分では伝わっているだろうと思っても、第三者の方が聞くと伝わっていないことがあり、抽象的な言葉を使わず、伝わる言葉を選ぶことの大切さを実感しました。市大キャリアスタディでは、先輩方が仕事のやりがいについて非常に生き生きとお話されており、数年後、私も先輩方のようになりたいと憧れを感じました。また、懇親会でお話をする中で、やりたいことを明確化することができました。私自身、まだまだ努力不足で至らない点が多々ありますが、このようなイベントに参加することによって、知らなかった



業界や仕事を知ることで選択肢や視野を広げることができました。今後もイベントには積極的に参加し、就職活動に自信をもって挑みたいと思います。



## 国際交流

## クイーンズランド大学交換留学

国際商学科4年 森兼 嵩登

(徳島県立城南高等学校出身)

私はオーストラリアのクイーンズランド大学に10か月間留学しました。留学中は様々な経験をする事ができました。その中でも組織行動の授業でダイバーシティに関するグループプレゼンテーションをしたことは一番困難な挑戦でした。今まで外国人と協力して何かをするという経験は全くしたことがなかったので、何とか力になれるように、ミーティングでは誰よりも意見を出し、メンバーの意見に質問を投げかけることを心がけました。なかなか最初は自分が言いたいことを上手く伝えられませんでした。何度も言い換えて最終的には理解してもらえました。発表後メンバーの一人から、「タカトがいなかったら成功しなかった。」と言ってもらえ、留学中で一番達成感を得ることができました。

留学前の自分と後を比べてみると「自ら行動を起こす力」がついたと感じています。プレゼンテーションの時も、ネイティブと話す時もそうでしたが、自ら積極的に行動を起こしたり、話しかけたりすることで良い結果が生まれたと思います。この力をこれからも伸ばしていきたいと思っています。



## 釜山での留学生生活を終えて

国際商学科2年 川島 日菜子

(福岡県立育徳館高等学校出身)

私は平成29年3月から約10か月間、釜山の東義大学校へ留学しました。留学が決まった日から出発の前日まで、韓国での生活が楽しみで仕方ありませんでした。初めは、慣れない環境で戸惑うこともありましたが、一緒に留学している友達と支え合い新しい環境に馴染んでいくことができました。私がこの1年間で得たものは、友達と生きていく力です。朝鮮語を学ぶ語学堂で出会った中国人の友達は、同じ留学生であるため共感できる部分が多く、一緒に遊んだり、旅行に行ったりするほど仲良くなりました。また、私の周りの韓国人の友達は本当にいい人ばかりで留学中たくさん助けられました。日本と近い韓国ですが、生活習慣や国民性など異なる部分は多くあります。そんな環境で生きていく中で行動力や判断力を得ることができました。自信をなくし落ち込むこともありましたが、美味しい韓国料理と周りの人たちのおかげで幸せな留学生活を送ることができました。



語学力はまだまだ努力が必要だと思ってしまうのでこれからも勉強を続けていこうと思います。最後に留学させてくれた両親と先生方に感謝し、この経験を生かしていきたいと思っています。

## 日本語スピーチコンテストで得られたもの

国際商学科2年 孫 聞博宇

(中国貴州省出身)

こんにちは、第5回日本語スピーチコンテストの総括を担当した孫聞博宇です。ちょうど1年前に出場した時の自分の姿が、まるで昨日のように思い出され、不思議な気分になるばかりです。

今回、最優秀賞の受賞者はトルコから来たアイチャさんです。「心のことば」というテーマで、言葉が通じなくても、一つの笑顔としぐさは、言葉の代わりに意味を伝えられることを語りました。実際に、あの日のアイチャさんも温かい笑顔と大きなりアクション、独特なユーモアで会場を盛り上げました。人と人の距離を縮めることとして言葉の重要性は言うまでもなく大切ですが、心と心の距離なら言葉よりなにかもっと大切なモノがあるとアイチャさんは考えているのでしょうか。

最後に、スピーチは誰もが緊張すると思いますが、それを克服して最後まで思い切り喋り、頑張った様子はみんな一緒に素晴らしかったです。身近な感動は一粒の出会いから生まれ、星屑の如し、集めればさっと綺麗な夜空になります。そして、目に映し出される「夜空」は皆さんにとって真実の日本ではないのでしょうか。



## スピーチコンテストの司会を通して

国際商学科2年 広野 一帆

(崇徳高等学校出身)

平成29年11月30日(木)、私は第9回中国語スピーチコンテストに司会として参加しました。今回の中国語スピーチコンテストは、山口県だけでなく広島県からの参加や高校生から一般の方まで幅広い方々の参加がありました。また、参加された方々のレベルがとても高く審査が何度も延長するほどに盛り上がりました。結果発表の時には悔しくて涙が出てしまう人もいて大変実りのある大会になりました。

年々、日本でもグローバル化が浸透してきました。都市の新幹線のホームには必ず旅行中の外国人がいて、標識や看板は少なくとも2か国語以上の言葉が表記されています。これからの私たちに必要なものは、コミュニケーションをすることが出来る力を育てていくことだと気がつきました。私たちは、すでに一つの言語だけで生活することは難しくなっています。今より下の世代ではより必要となってくるでしょう。そこで皆さんもぜひスピーチコンテストや国際交流に参加してみたいはかがでしょうか？



## 国際交流

## コリアンスピーチコンテストを終えて

経済学科2年 泥谷 瑞美

(山口県立下関中等教育学校出身)

私は、平成29年12月13日(水)に開催された「第13回コリアンスピーチコンテスト」の弁論の部に出場いたしました。

私のスピーチのテーマは「言葉の壁」です。私が朝鮮語研修に行った際に感じた「言葉の壁は語学を学ぶ人だけでなく、サポートする側の工夫で和らげることができる」という想いを伝えたいと考え、このテーマを選びました。テーマは決まったものの想いを上手く言葉にできず、日本語の原稿を作るのに大変時間がかかりました。何とか完成させた原稿を必死に練習し、スピーチコンテストに挑みました。

スピーチコンテストの参加者は大学生だけでなく、高校生や中学生、さらには留学生の方もいらっしゃいました。どの部門も本当にレベルが高くて、とても良い刺激になりました。特に弁論の部の参加者の方々は、発音だけでなく内容も素敵なお話ばかりで、レベルの高さに圧倒されました。そのようなレベルの高い弁論の部で最優秀賞をいただくことができ、本当に嬉しかったです。原稿を作るのは大変でしたが、頑張ってよかったと思います。この結果を糧に、今後も朝鮮語の勉強に励んでいきたいと思います。



## 留学生送別会を終えて

国際交流会ともだち 国際商学科2年 木村 明日美

(山口県立宇部中央高等学校出身)

平成30年1月19日(金)、私たち国際交流会ともだちが主催する留学生送別会が行われました。今年度下関市立大学を離れる留学生の方々のために、最後の思い出を作っていたこうとささやかながら立食会を開催させていただきました。

当日は留学生だけでなく、多くの来賓の方や教員のみなさまにお越しいただきました。短い時間ではありましたが、留学生あいさつやよさこいダンスサークルによる演舞など歓談をはさみながらそれぞれ交流を楽しみました。

今回の留学生送別会は私たち2年生が主体となって行う初めてのイベントでした。そのため、準備から当日に至るまで国際交流班や学生支援班の方々に多くの助けをいただきました。

来年度行われる留学生歓迎会は、今回の教訓を生かし、より充実したものにし、留学生を迎え入れたいと思います。



## 食・見・交・群 縁起の良い餃子

国際商学科1年 田 娟

(中国重慶市出身)

平成30年1月6日(土)に、第10回「食・見・交・群 ～餃子パーティー～」を開催しました。市大生だけではなく、各国の留学生、社会人、子供を含めて約50人の方にお集まりいただきました。今回は6グループに分かれて対戦形式で餃子を作りました。最初に、皮作りから、餃子のあん、餃子を包むまでの作り方とポイントなど説明をし、そして、練習時間の後で対戦を始めます。一番早く100個の餃子を作り終わったグループが優勝です。できた餃子の形はバラバラでしたが、まずは作ることが有意義だと思いました。作っている時に中国の北と南の餃子の包み方も披露しました。

「福」の文字が貼ってある窓に囲まれたこの小さい部屋で手を動かしながら文化交流している雰囲気、小麦粉まみれの皆の笑顔、餃子を口の中を含みながら言ってくれた「おいしい」という言葉は、素晴らしい光景でした。

最後に、中国の観光地の紹介と春節の説明、中国の伝統的なゲーム「撃鼓伝花」をすることでとても盛り上がりました。食を通じたパーティーの形で中国の文化を皆に知っていただくことができ本当にうれしかったです。



## 第2回日本文化の神髄を知ろう・酒蔵見学

特別聴講生 許 金子

(中国・青島大学から派遣)

平成30年1月12日(金)に、「日本文化の神髄を知ろう」と題する酒蔵見学に参加し、下関酒造株式会社で日本酒の文化を体験しました。

講義を通じて、日本酒の種類、日本酒作りに必須となる米、お酒と料理の相性などについて色々面白い話を聞きました。次に4種類のお酒で利き酒をしました。お酒が好きなので、4つの製品を飲み比べることが一番の楽しみでした。利き酒の後に酒造の機械も見学しました。普段見られないところを見せていただき、いい勉強になりました。また、下関酒造の歴史や今の製品について説明を受けました。日本酒には長い歴史があり、はるか昔から日本では米を原料にお酒を造っていたことがわかりました。

見学が終わった後、甘酒を買いました。甘酒を飲むのは今回初めてでした。試飲を通して日本の食文化への理解を深めることが



できてよかったと思います。日本の酒造の歴史にも興味を持つようになりました。大変面白く見学させていただいて、意義のある1日でした。これからもっと日本文化を体験しようと思います。

## 退任挨拶

### 思い出すこと

教授 米田 昇平



年末から早々と撤収準備に取り掛かっている。引き出しを整理していると、手紙などに混じって雑然と折り重なった写真がたくさん出てきた。33年に及ぶ市大での個人史の証しであるが、ほとんどが着任して15年くらいまでのフィルム写真だ。そこに写っているのは、今の私の風貌からすれば別人のそれであるが、同僚の教員や職員の方々も似たようなもの。すでに鬼籍入りされた方も何人かおられる。宴会の写真が一番多い。ほかに、テニス、卓球、トリムバレーなど教職員で行ったスポーツ大会での一駒など、どれも懐かしいものばかりだ。この頃の市大を一番楽しんだのは間違いなくこの私だろう。

獣医師の熊谷先生(大作を3点大学に寄贈していただいた)から美術部の顧問を引き継ぐことになり、部展の折に何度か自作を出品したことがある。また最初は中山学生部長との共同作業であったが、幻の第二グラウンドや新学部棟を含めてキャンパス再開発の図面もどきを数えきれないほど書いた。本館の建設にも図面書きの初期段階でかかわったが、この完成と学科の新設によって、他大学と競い合う上でようやく同じラインに立てた、なんとか間に合った、と安堵したことを覚えている。教員3名が中心となってタブロイド判の『市大広報』を創刊して編集に励んだことも懐かしい。6年間で12号、そのうち11回編集長を務めた。いずれも移り気な若い頃に志した道だったから、楽しい思い出となっている。

省みて、知的探求の成果をいつでも形にして世に問うことができるという恵まれた環境をどれほど生かすことができたか、心許ないかぎりである。セカンドライフは、古典の翻訳を続けながらも、初心に帰って絵を見たり描いたりして過ごそうなどと考えていたが、しばらくはこの道が続けることにした。

この大学に職を得ていなかったらどうなっていたか。そのことを思うにつけ、感謝の気持が湧きおこる。本当です。皆さん、いろいろありがとう。

### 退任の言葉

教授 相原 信彦



中学時代の担任が英語の教師であり、その影響もあって教育学部の英語教員養成課程に進学しました。どこで「間違った」のか、大学院では英文学を選択し、しかもそれまであまり縁のなかったシェイクスピアを専攻しました。確かに学部の卒論ではシェイクスピアの『オセロ』研究をするにははまりましたが、まさかこの私は大学の教員になるとは夢にも思っていませんでした。

1983年にこの大学に就職しましたが、私の中で一つの物差しがありました。それは学生を愛せなくなったら教員の職を辞するというものです。授業中にあまりにも学生の勉強に対する姿勢のいい加減さに腹を立て、ほぼ半年間休講にするというめっちゃくちゃなことをしたこともありますが、幸いにも学生を嫌いになることはありませんでした。ただ、こんな我儘なわたしが定年までこの大学で勤めることが出来たのは、学生に対する気持ちが変わらなかったことが一番の理由ではありますが、それ以外に同僚に助けられたこ

とも大きな要因だったと今は思っています。

すでに退官された先輩に研究室に呼ばれ、私の怠惰な生活を叱責されたこともありましたが、私のとは違う物差しを持っている同僚の存在は大きなものでした。メモリが一つとは思われないN先生の物差し。真面目で、大きな優しさを併せ持つS先生の物差し。感激屋で涙もろく情熱的なY先生の物差し。中でも、学内業務だけではなく、研究にも授業にも全力で向い、傍でみていると倒れるのではないかと心配してしまうほどひたむきなK先生の物差しは、私には決して手に入れることが出来ないものでしたが、一番影響を受けましたし、K先生の同僚でいられたことは私の誇りです。

こうした素晴らしい教員と接することができる学生は幸せだと思っています。なるほど不本意な形でこの大学に入ってきた学生も多いのかもしれませんが、少しだけ気を付けてみて下さい。そうすれば自分が自慢できる大学に籍をおいていることを知り、幸せな気分になりますよ。

### 下関市立大学での22年間を振り返って

特任教員 中野 琴代  
(日本語学専門)



1995年4月下関市立大学に赴任、22年間、留学生への日本語教育に携わった。

市大は、現在、学部生と短期留学生あわせ、中国、韓国、ドイツ、台湾、トルコ、タイの7カ国・地域から受け入れている。この間、学生の意識と行動も変化した。

学部生は東アジア出身が大半を占め(これは今も同じ)、私の赴任時の経済事情では、日本での留学費用を親族に頼ることは難しく、アルバイトが必須であった。学部生は4年間勉強しながらアルバイトをし、奨学金を受給するには優秀な成績を獲得せねばならず、留学には強い意志と努力そして忍耐力が必要だった。当時、留学生を支援したい日本人の学生有志と教員の働きかけによってチューター制度が作られていたが、留学生は勉学とアルバイトの両立で忙しく、日本人チューターからは会って話することもままならないという愚痴が聞かれるほどであった。現在は経済差も縮まり、アルバイトせずに勉学に専念できる学生が増え、年齢も下がり、社会に出る前の一段階として日本での大学生活を享受する意識が強いようで、それはとても幸福なことだと思う。もちろん現在は現在の苦労があるだろうが。

日本人学生も変わった。留学生と関わる学生は、かつては留学支援というボランティア性が強かったが、現在は同じ若者として互いに交流を楽しむ意識が強いようだ。しかし、日本社会という枠から外へ、未知の分野開拓という意識は若干薄れているように思われるのは少し残念。

最後に日本語という言葉について。日本語は特別な言語と見る人が多いようだが、言語はそれぞれ特性があって、日本語だけが特別ではない。多種の文字(漢字、ひらがな、かたかな、アルファベット、絵文字等)や敬語の使用等はあるが、それは日本語の個性である。一方で、若者の自由発想や表現が、規範にとらわれすぎて、「皆と同じ」が安全、安心、それで満足とするのは惜しい。自分の個性、独創性は自分の心の箱の中にしまっただけでも必要ときに発揮できるようにしてほしいと思う。

## 下関市立大学 News &amp; Topics

「確立された地域ブランドの進化に関する諸課題  
—下関フグと垢田トマトを事例に—」

教授 濱田 英嗣

(附属地域共創センター センター長)

全国各地で地域ブランド化の取り組みが行われていますが、すでに一定程度ブランドが確立された農水産物がさらに地位を強固にするための方策に関する論議は手薄な状況です。そこで、確立された地域ブランドがさらに進化するために何が必要か、という観点から議論する場を設営しました。議論を深めるために、下関を代表する下関フグと垢田トマトを事例としました。

議論では下関フグ、垢田トマト共にそれぞれの課題解決に向けて全力でブランドを進化させないとブランド価値の維持は難しいこと、具体的には激変している市場環境に適應すべくブランド管理を強化すること、大衆市場化にも対応すべきことなど新たな挑戦を積極果敢に行う必要があることが指摘されました。さらにブランド価値を長期的に維持するためには蓄積された技能を次世代に如何に伝承するか、その仕組みづくりに関しても課題として提起されました。



## 第3回日本にいながら世界を知ろう!!

科目等履修生 アイチャ テキン

(トルコ・ボアジチ大学から派遣)

私は下関市の姉妹都市であるトルコのイスタンブール市出身で、日本語と日本の文化に興味があり下関市立大学に留学することにしました。

平成29年10月25日(水)に開催された「第3回日本にいながら世界を知ろう!!」では、私の母国のトルコについて紹介しました。トルコと日本の似ているところ、違っているところを皆で一緒に考える機会を作りました。トルコと聞いても何語で話されているか知らない日本人が多くいると思います。下関市立大学の学生に少しでも姉妹都市のイスタンブールやトルコのことを知ってもらえて嬉しかったです。日本とトルコは遠く離れても歴史的な繋がりを持っているので、興味を持ってもらえたらいいなと思いました。今回の発表では、文化を表すことわざを紹介し、トルコ人の考え方について話しました。また、来てくださった皆さんとトルコのナッツを食べたり、トルココーヒーを飲んだりしました。一緒に忘れられない思い出を作りました。



## 自著を語る

連載企画

## 日系小売企業のアジア展開

—東アジアと東南アジアの小売動態—

国際商学科 教授 柳 純  
(編著 中央経済社 2017年)

今日、日本の小売企業が海外展開していることは、製造業(メーカー)のそれと比べてあまり知られていない。近年、アジア市場を目指して日系小売企業が活動を活性化させており、その傾向として地理的な拡大(東アジアから東南アジアへのシフト)に加えて、量的増大(多店舗展開による店舗数の増加)および質的変容(小売ビジネスモデルの多様化)が認められる。



さて、本書のテーマは、東アジアと東南アジアをフィールドとする流通と日系小売企業であり、当該国・地域別に分析することに注力している。アジア各国・地域の現地小売流通の構造変化、競争関係・行動の多様化、今後の日系小売企業の発展可能性などの着眼点を設けることで、読者には、アジアにおける流通の本質、日系小売企業の「現地化」の取り組みに関しても理解できるように努めたつもりである。

アジアにおける流通研究ならびにマーケティング研究の蓄積は決して多いとは言えないが、本研究の出発点は、アジアの当該国・地域の流通活動を代表する小売業の分析を通じて「小売国際化」のインパクトを模索するところにある。

本書を通じて、アジアにおける日系小売企業の知られざる実態を知る機会になれば幸いである。

## 私のゼミ

連載企画

## 個を磨くためのチーム

国際商学科3年 松田 優奈


(福岡県立小倉高等学校出身)

山川ゼミでは、貿易や為替、経済発展、エネルギーなどについて、国際経済学や国際政治経済学の観点から研究しています。山川ゼミの特長は、論文作成やゼミ発表について、みんなで考える点です。ゼミでは、議論の時間が多くあります。議論を重ねることで、新たな視点や考え方に気づくことができ、どうしたら伝わるかを意識するようになりました。先生からは様々なアドバイスやサポートをいただけますが、結論を明確にし、深く考える主体はあくまで私達ゼミ生です。山川ゼミ3年次のメインイベントは、夏と冬の間他大学との合同ゼミとそこでの論文執筆です。私は、グループで『東アジア貿易体制の行方』という論文を執筆しました。書いていく過程で、経済的知識だけでなく、論理的な構成を考え抜く力、チームでの分業など様々な能力が身につきました。ゼミを通じて、成長には、個人の頑張りはもちろんですが、チームの役割もとても重要だと感じました。これから個人で卒論を執筆していきますが、培ったゼミ内のチームワークを生かし、よい論文を書きたいです。



■平成29年度 秋季大会等成績

サークル名	イベント名	所属・出場種目	結果	個人名
準硬式野球部	全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	中国地区代表チーム選抜	3位(中国地区代表チーム)	瀧田倅綺・岩本和也
軟式野球部	西日本地区学生軟式野球秋季1部リーグ戦		6位	千畠勇樹(ベストナイン 投手) 杉本 迅(ベストナイン 外野手)
男子バレーボール部	2017年度第70回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 北九州・下関地区大学体育大会		出場 優勝	
硬式庭球部	北九州・下関地区大学体育大会	団体	優勝	
空手道部	北九州・下関地区大学体育大会	団体組手	優勝	西松・梶山・村井・山田・辻田
		個人型	優勝	藤井大雅
少林寺拳法部	山口県体育大会少林寺拳法競技	団体演武の部	準優勝	下関市立大学A
		男子組演武級拳士の部	優勝	山元克弥・藤澤 航
			準優勝	中村公一朗・迫田一陽
		女子組演武級拳士の部	優勝	田村友里・北本もみぢ
		女子単独演武級拳士の部	優勝	弘中美樹
			準優勝	安藤愛華
		男子単独演武級拳士の部	準優勝	小野拓海
			優勝	洪原友輝
	中四国冬季学生大会	団体演武の部	準優勝	下関市立大学A
		男女組演武茶帯の部	優勝	山元克弥・安藤愛華
		女子組演武茶帯の部	準優勝	田村友里・北本もみぢ
		男子組演武初段の部	3位	大塚拓弥・井倉麟太郎
		女子組演武初段の部	準優勝	澤末 涼・田中真奈美
		立ち合い評価法女子	優勝	田中真奈美
陸上競技部	平成29年度山口県体育大会	一般男子100m	1位	石川順典
		一般男子4×400mR	2位	西村・桜谷・石川・富森



## 全国大会出場

**■準硬式野球部 (個人出場)**  
第35回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会中国地区代表チーム選抜  
瀧田 倅綺 選手 写真前列左  
岩本 和也 選手 写真前列中

**■男子バレーボール部**  
第70回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会  
橋満 悠 主将 写真前列右

■学生団体新役員

<p><b>第14代学友会執行部</b></p>  <p>会長 今井 皓基 (国際商学科3年)</p> <p>副会長 上村 怜平(経済学科3年) 会計局長 奥村 海斗(経済学科1年)</p>	<p><b>第43代体育会</b></p>  <p>会長 久木留 雅人 (経済学科3年)</p> <p>副会長 今井 皓基(国際商学科3年) 総務局長 分藤 優(国際商学科2年)</p>	<p><b>第34代文化会</b></p>  <p>会長 岡本 麻央 (経済学科2年)</p> <p>副会長 植田 莉涼(経済学科2年) 書記 木島 隆(国際商学科1年)</p>	<p><b>第57回大学祭実行委員会</b></p>  <p>委員長 轟木 康陽 (国際商学科2年)</p> <p>副委員長 森 恵(国際商学科2年) 企画開発局長 萩原 美季(経済学科2年)</p>
--	--	--	---

■行事記録(平成29年11月～平成30年2月)

<p>平成29年</p> <p>11月 2日 下関市立大学弁論大会 日本語スピーチコンテスト</p> <p>9日 FDフォーラム</p> <p>11日 市民大学テーマ講座</p> <p>15日 合同業界研究会(～17日)</p> <p>18日 推薦・特別選抜(帰国子女等・社会人)・編入学</p> <p>30日 下関市立大学弁論大会 中国語スピーチコンテスト インターンシップ報告会</p> <p>12月 13日 下関市立大学弁論大会 コリアンスピーチコンテスト</p> <p>14日 共同自主研究発表会</p> <p>16日 外国人留学生選抜</p> <p>19日 第1回リーダーシップトレーニング</p> <p>21日 第1回交通安全講習会</p> <p>26日 冬季休業(～1月8日)</p> <p>29日 学内一斉休業(～1月3日)</p>	<p>平成30年</p> <p>1月 6日 食見交際～餃子パーティー～</p> <p>9日 授業再開</p> <p>12日 大学入試センター試験準備(全学休講) 日本文化の神髄を知ろう</p> <p>13日 大学入試センター試験(～14日)</p> <p>16日 第2回交通安全講習会</p> <p>19日 留学生送別会</p> <p>25日 卒業論文提出日(～26日)</p> <p>29日 秋学期定期試験(～2月2日)</p> <p>31日 大学院学位論文提出日</p> <p>2月 3日 市大キャリアスタディ</p> <p>6日 大学院研究発表会</p> <p>7日 第2回リーダーシップトレーニング</p> <p>8日 学内業界研究会</p> <p>25日 一般選抜(前期日程)</p>
--	---

■2018年度入試結果

本学において、11月18日(土)に2018年度推薦入学、特別選抜(帰国子女・社会人)、第3年次編入学の試験を、12月16日(土)に外国人留学生選抜の試験をそれぞれ実施しました。

学科	入試区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
経済学科	推薦	全国	28	94	94	33	2.8
	地域	A	29	51	51	31	1.6
		B					
	帰国子女		2	0	—	—	—
		社会人	2	0	—	—	—
	外国人留学生	若干名	7	7	3	2.3	
第3年次編入学		8	23	17	9	1.9	
国際商学科	推薦	全国	28	53	53	33	1.6
	地域	A	29	43	43	30	1.4
		B					
	帰国子女		2	0	—	—	—
		社会人	2	0	—	—	—
	外国人留学生	若干名	25	25	14	1.8	
第3年次編入学		8	19	15	9	1.7	
公共マネジメント学科	推薦	全国	8	34	34	8	4.3
	地域	A	8	15	15	8	1.9
		B					
	帰国子女		1	0	—	—	—
		社会人	1	0	—	—	—
	外国人留学生	若干名	1	1	1	1.0	
第3年次編入学		4	14	13	5	2.6	

※推薦入学の合格者数には第2、第3志望学科合格者を含みます。